



平成22年4月19日

各 位

ユニバーサルソリューションシステムズ株式会社
代表取締役社長 青木毅
(コード番号:3390)
問合せ先 取締役管理本部長 村上孝徳
電話番号 03-6858-0411

**(訂正・数値データ訂正あり) 「平成21年3月期 第2四半期決算短信(非連結)」
の一部訂正に関するお知らせ**

当社は、平成22年3月26日付「過去の業績に影響を与える事象の発生及び社内調査委員会の設置に関するお知らせ」を公表いたしましたとおり、その具体的な訂正内容が確定いたしましたので別添のとおり訂正いたします。

なお、訂正箇所につきましては、訂正前と訂正後をそれぞれ添付し、訂正箇所には下線を付して表示しております。

記

1. 訂正を行う平成21年3月期 第2四半期決算短信(非連結)について
決算期:平成21年3月期 第2四半期(平成20年4月1日～平成20年9月30日)
公表日:平成20年11月14日

以 上

平成 21 年 3 月期 第 2 四半期決算短信 (非連結)

(百万円未満切捨て)

1.平成 21 年 3 月期第 2 四半期の業績(平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(1)経営成績 (累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21 年 3 月期第 2 四半期	1,137	—	△155	—	△147	—	△140	—
20 年 3 月期第 2 四半期	1,076	<u>△19.7</u>	△316	—	△319	—	△324	—

	1 株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21 年 3 月期第 2 四半期	△2,137.62	—
20 年 3 月期第 2 四半期	△5,520.44	—

(2)財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21 年 3 月期第 2 四半期	<u>1,352</u>	<u>631</u>	<u>46.5</u>	<u>9,007.64</u>
20 年 3 月期	<u>1,346</u>	<u>663</u>	<u>49.3</u>	<u>11,300.25</u>

(参考)自己資本 21 年 3 月期第 2 四半期 628 百万円 20 年 3 月期 663 百万円

(略)

(訂正後)

平成 21 年 3 月期 第 2 四半期決算短信 (非連結)

(百万円未満切捨て)

1.平成 21 年 3 月期第 2 四半期の業績(平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(1)経営成績 (累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21 年 3 月期第 2 四半期	1,137	—	△155	—	△147	—	△140	—
20 年 3 月期第 2 四半期	1,076	<u>△31.1</u>	△316	—	△319	—	△324	—

	1 株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21 年 3 月期第 2 四半期	△2,137.62	—
20 年 3 月期第 2 四半期	△5,520.44	—

(2)財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21 年 3 月期第 2 四半期	<u>1,215</u>	<u>495</u>	<u>40.5</u>	<u>7,055.38</u>
20 年 3 月期	<u>1,210</u>	<u>527</u>	<u>43.6</u>	<u>8,982.36</u>

(参考)自己資本 21 年 3 月期第 2 四半期 492 百万円 20 年 3 月期 527 百万円

(略)

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期におけるわが国経済は米国の景気減速の長期化及び素材・原油価格の高騰等を背景に、企業業績及び個人消費も失速するなど、景気予測が下方修正される状況が続きました。さらに9月にはリーマン・ブラザーズ問題に端を発した金融不安が顕在化したことにより、世界的な景気減速は本格的なものとなりました。外需依存型の日本経済は景気後退局面へと入り、先行き不透明感は一層強まっております。

このような情勢の下、当社は本格的な業績回復に向け自社営業力の強化、パラマウントベッド株式会社との業務提携による営業推進に加え、第1四半期には株式会社光通信と資本業務提携を行い、売上拡大に尽力してまいりました。

この結果第1四半期では、24ヵ月ぶりに営業黒字という結果を残すことができました。しかしながら、第2四半期におきましては主に、

- (1) 急速な景気後退の影響による大口ASPシステム受注の下半期以降への期ずれ
- (2) 株式会社光通信との資本業務提携を最大限活用するための人員体制構築による販売管理費の増加

の2つの理由から大幅な営業損失を計上いたしました。

以上の結果、当第2四半期の売上高は476,915千円となり、売上総利益は38,151千円、経常利益△158,706千円となりました。

事業部門別の売上高につきましては、ASP事業は285,704千円、eコマース事業は191,211千円となりました。

第3四半期以降につきましては、引き続きASPシステム受注において苦戦が予測されるものの、景気動向に左右されない介護システムの受注が期初と比較して月間で4倍程度の順調な伸びを示しており、早期にASPシステム受注の期ずれによるマイナスをカバーすべく注力して参ります。また、株式会社光通信との業務提携効果も順調に上がり始めており、第4四半期以降の業績に大きく寄与するものと考えております。さらに第4四半期には株式会社光通信と共同で携帯電話を活用した在宅介護向けソリューションである「Mobile Care Online」を市場投入する予定です。

なお、平成21年3月期第1四半期に係る経営成績に関する定性的情報については、平成21年3月期第1四半期決算短信(平成20年8月5日開示)をご参照ください。

2. 財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて57,750千円増加し、632,860千円となりました。これは主に現金及び預金が49,461千円、売掛金が24,426千円増加したことなどによりです。

固定資産は、前事業年度末に比べて 54,667 千円減少し、716,585 千円となりました。これは主にソフトウェアが 50,483 千円減少したことなどによります。

この結果、総資産は前事業年度末に比べて 5,391 千円増加し、1,352,114 千円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて 41,556 千円減少し、589,416 千円となりました。これは主に買掛金が 31,005 千円、未払金が 13,944 千円減少したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて 79,413 千円増加し、131,453 千円となりました。これは主に社債の発行により 95,000 千円増加し、長期未払金が 16,227 千円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は前事業年度末に比べて 37,856 千円増加し、720,870 千円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べて 32,465 千円減少し、631,243 千円となりました。これは主に第三者割当増資により資本金が 52,250 千円、資本準備金が 52,250 千円増加し、利益剰余金が 140,070 千円減少したことなどによります。

(訂正後)

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第 2 四半期におけるわが国経済は米国の景気減速の長期化及び素材・原油価格の高騰等を背景に、企業業績及び個人消費も失速するなど、景気予測が下方修正される状況が続きました。さらに 9 月にはリーマン・ブラザーズ問題に端を発した金融不安が顕在化したことにより、世界的な景気減速は本格的なものとなりました。外需依存型の日本経済は景気後退局面へと入り、先行き不透明感は一層強まっております。

このような情勢の下、当社は本格的な業績回復に向け自社営業力の強化、パラマウントベッド株式会社との業務提携による営業推進に加え、第 1 四半期には株式会社光通信と資本業務提携を行い、売上拡大に尽力してまいりました。

この結果第 1 四半期では、24 ヶ月ぶりに営業黒字という結果を残すことができました。しかしながら、第 2 四半期におきましては主に、

- (3) 急速な景気後退の影響による大口 A S P システム受注の下半期以降への期ずれ
- (4) 株式会社光通信との資本業務提携を最大限活用するための人員体制構築による販売管理費の増加

の 2 つの理由から大幅な営業損失を計上いたしました。

以上の結果、当第 2 四半期の売上高は 476,915 千円となり、売上総利益は 38,151 千円、経常利益△158,706 千円となりました。

事業部門別の売上高につきましては、A S P 事業は 285,704 千円、e コマース事業は 191,211 千円となりました。

第3四半期以降につきましては、引き続きASPシステム受注において苦戦が予測されるものの、景気動向に左右されない介護システムの受注が期初と比較して月間で4倍程度の順調な伸びを示しており、早期にASPシステム受注の期ずれによるマイナスをカバーすべく注力して参ります。また、株式会社光通信との業務提携効果も順調に上がり始めており、第4四半期以降の業績に大きく寄与するものと考えております。さらに第4四半期には株式会社光通信と共同で携帯電話を活用した在宅介護向けソリューションである「Mobile Care Online」を市場投入する予定です。

なお、平成21年3月期第1四半期に係る経営成績に関する定性的情報については、平成21年3月期第1四半期決算短信（平成20年8月5日開示）をご参照ください。

2. 財政状態に関する定性的情報

（資産）

流動資産は、前事業年度末に比べて57,750千円増加し、610,360千円となりました。これは主に現金及び預金が49,461千円、売掛金が24,426千円増加したことなどによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて54,667千円減少し、602,946千円となりました。これは主にソフトウェアが50,483千円減少したことなどによります。

この結果、総資産は前事業年度末に比べて5,391千円増加し、1,215,975千円となりました。

（負債）

流動負債は、前事業年度末に比べて41,556千円減少し、589,416千円となりました。これは主に買掛金が31,005千円、未払金が13,944千円減少したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて79,413千円増加し、131,453千円となりました。これは主に社債の発行により95,000千円増加し、長期未払金が16,227千円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は前事業年度末に比べて37,856千円増加し、720,870千円となりました。

（純資産）

純資産合計は、前事業年度末に比べて32,465千円減少し、495,104千円となりました。これは主に第三者割当増資により資本金が52,250千円、資本準備金が52,250千円増加し、利益剰余金が140,070千円減少したことなどによります。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(訂正前) 5～6 ページ

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成20年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	299,337	249,876
売掛金	331,730	307,304
仕掛品	3,547	—
その他	69,974	77,342
貸倒引当金	<u>△71,730</u>	<u>△59,414</u>
流動資産合計	<u>632,860</u>	<u>575,109</u>
固定資産		
有形固定資産	37,458	38,449
無形固定資産		
ソフトウェア	414,152	464,636
その他	1,700	1,712
無形固定資産合計	<u>415,853</u>	<u>466,349</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	<u>140,400</u>	<u>141,585</u>
その他	122,873	124,868
投資その他の資産合計	<u>263,273</u>	<u>266,454</u>
固定資産合計	<u>716,585</u>	<u>771,253</u>
繰延資産	2,668	360
資産合計	<u>1,352,114</u>	<u>1,346,722</u>
負債の部		
流動負債		
買掛金	126,357	157,363
短期借入金	84,000	85,000
1年内返済予定の長期借入金	1,196	8,168
1年内償還予定の社債	200,000	200,000
未払法人税等	4,092	4,650
賞与引当金	26,923	26,961
その他	146,846	148,829
流動負債合計	<u>589,416</u>	<u>630,973</u>
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	95,000	—
退職給付引当金	6,629	6,498
その他	29,824	45,541
固定負債合計	<u>131,453</u>	<u>52,040</u>
負債合計	<u>720,870</u>	<u>683,013</u>

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成20年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	968,150	915,900
資本剰余金	575,200	522,950
利益剰余金	<u>△915,211</u>	<u>△775,140</u>
株主資本合計	<u>628,138</u>	<u>663,709</u>
新株予約権	3,104	—
純資産合計	<u>631,243</u>	<u>663,709</u>
負債純資産合計	<u>1,352,114</u>	<u>1,346,722</u>

(訂正後)

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成20年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	299,337	249,876
売掛金	331,730	307,304
仕掛品	3,547	—
その他	69,974	77,342
貸倒引当金	<u>△94,230</u>	<u>△81,914</u>
流動資産合計	<u>610,360</u>	<u>552,609</u>
固定資産		
有形固定資産	37,458	38,449
無形固定資産		
ソフトウェア	414,152	464,636
その他	1,700	1,712
無形固定資産合計	<u>415,853</u>	<u>466,349</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	<u>26,760</u>	<u>27,946</u>
その他	122,873	124,868
投資その他の資産合計	<u>149,634</u>	<u>152,815</u>
固定資産合計	<u>602,946</u>	<u>657,614</u>
繰延資産	2,668	360
資産合計	<u>1,215,975</u>	<u>1,210,583</u>
負債の部		
流動負債		
買掛金	126,357	157,363
短期借入金	84,000	85,000
1年内返済予定の長期借入金	1,196	8,168
1年内償還予定の社債	200,000	200,000
未払法人税等	4,092	4,650
賞与引当金	26,923	26,961
その他	146,846	148,829
流動負債合計	<u>589,416</u>	<u>630,973</u>
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	95,000	—
退職給付引当金	6,629	6,498
その他	29,824	45,541
固定負債合計	<u>131,453</u>	<u>52,040</u>
負債合計	<u>720,870</u>	<u>683,013</u>

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成20年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	968,150	915,900
資本剰余金	575,200	522,950
利益剰余金	<u>△1,051,350</u>	<u>△911,279</u>
株主資本合計	<u>491,999</u>	<u>527,570</u>
新株予約権	3,104	—
純資産合計	<u>495,104</u>	<u>527,570</u>
負債純資産合計	<u>1,215,975</u>	<u>1,210,583</u>